

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670104860
法人名	医療法人 祐志会
事業所名	グループホーム 花々館郡山
所在地	鹿児島県鹿児島市郡山町2157番地1 (電話)099-298-2688
自己評価作成日	令和4年2月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和4年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・医療法人を母体に、24時間体制で医療との連携を図り、健康管理を行っているので、入居者様には安心して生活をして頂いている。
- ・守屋病院での通院リハビリを入居者様の希望に添い、支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、大きな道路から少し奥に入った静かな住宅街にあり、山や川が近くにあり、自然に恵まれている。
- ・玄関口には季節の花を植えたプランターが置かれていて、季節が感じられる。近くには銀行や郵便局やマーケットがあり、バス停も近くで交通の便が良く、家族や知人・友人が訪問しやすい環境の中にある。
- ・母体は医療法人で医療連携体制が24時間整っている事で家族や本人も安心してしている。
- ・職員の勤続年数が長く、職員間のコミュニケーションも良く、管理者は職員との関係を大切にしてお互いに質の向上を図ることに努力している。職員の精神面のフォローも母体の医療法人から産業カウンセラーの派遣をすることにより改善できるように工夫している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員の目につきやすい場所に理念を掲示し、理念を意識しながら仕事ができるよう行っている。	理念はパンフレットやホールの見やすい場所に掲示している。申し送り時に唱和し、スタッフ会議やミーティング等で振り返りを行い確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナ禍の中で、地域との交流が困難状態ではあるが、自治会に入っており、回覧版受け渡しを通し地域住民との交流等を図っている。	自治会に加入し回覧板等で地域の情報を得ている。敷地内を散歩時に地域住民との挨拶を交わしている。地域交流は、しばらくは難しそうだが、文化祭があれば作品など展示したり交流を計画している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	入居相談の電話や見学に来られた方々に対し、助言を行う事もある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の開催となっているが、コロナ禍の状況で、活動状況、その他報告は文章や電話にて報告を行っている。	運営推進会議は、定期的に2ヶ月毎に書面での開催をしている。委員へ郵送し、電話で話しをして意見を聞いている。その中で、夜の状況やプライバシーについて等の質問があり対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>関係機関への情報収集や助言を頂いている。</p>	<p>介護保険の手続き等に窓口に出向いたとき相談をしたり運営推進会議の報告をしている。市主催の研修会はオンラインで参加している。スタッフにも案内を共有して参加できるようにしている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>2か月に1回スタッフ会議にて身体拘束廃止委員会を中心に勉強会を実施。事例検討も行いながら理解を深めている。</p>	<p>マニュアルを基に2ヶ月毎にスタッフ会議の中で勉強会を開催している。言葉遣いについては職員間で注意し合い改善に向けている。昼間は玄関の施錠はしていない。外出希望の利用者には施設周辺の散歩の同行したり、近くまで車でドライブしたりして、気分転換を図っている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体拘束廃止委員会を中心に高齢者虐待についての勉強会を実施。日頃の支援を振り返りながら、虐待に繋がらないよう意識している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>学習委員会を中心に勉強会を実施、職員間で共有できるよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>ご不明な点等繰り返し説明を行いながら、入居者様やご家族様が納得できるまで説明をしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族面会時や電話連絡の際には、積極的に声をかけ、情報を共有できるように努めている。</p>	<p>利用者からは日常の会話の中で情報を収集している。家族からは窓越しの面会で内部行事の写真を見せながら要望などを聞いている。「お菓子が食べたい。飲み物が飲みたい」等の要望に、職員が買いに行き本人に手渡ししている。来年度はアンケートも検討していく。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月1回スタッフ会議を開催し、職員の意見等が反映できるよう確認を行っている。その他必要時には産業カウンセラーとの面談も行っている。</p>	<p>管理者は職員会議の中でいろいろな意見を聞いている。個々に職員と話す機会を作り信頼関係を築いている。ユニット間の職員の配置転換をして利用者をお互いによく知りケアができるようにしている。悩み相談は法人より要望に応じて産業カウンセラーの派遣等も実施している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>本人の意向を重視しながら職場内で活かせる労働条件作りに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月法人内勉強会があり、積極的に職員も参加している。法人外の研修参加はコロナ禍もあり、オンライン研修等を活用していきたいと思う。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>月1回の向上委員会に出席し質の向上に向け、意見交換を実施している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人について、家族や他関係者からも入居前の状況で不安に思っている事や要望を聞き取り、ホームで対応出来る事や生活の流れを詳しく説明している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と面談し、入居前の状況についての聞き取りをしっかり行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の医療機関、施設等、協力機関と連携をとり、入居者の日常生活が入居後も継続出来るよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者本位に考え、これまでの生活習慣を出来る限り変えず、一人ひとりが出来る家事活動や役割、得意な事を取り組んで頂けるよう、声掛けや場面作りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時に日常の様子を報告し、電話での会話や、窓越しでの会話を楽しんで頂けるよう支援している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>居室内には馴染みの物を持って来て飾って頂いたり、電話の取次ぎを支援している。また、馴染みの美容室の方に来館して頂いたり、知人が面会に来られたりと支援している。</p>	<p>携帯電話で、家族や友人・知人との電話交流をしている。窓越しの面会に知人が来られることもある。2ヶ月毎の訪問美容師の受け入れもしている。馴染みの店に職員が頼まれ物の買い物に行くこともある。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>気の合う方同士、居室やフロアでの座席に配慮し、何気ない会話や活動が出来る様工夫している。孤立、トラブルにならないよう声掛けや支援を行っている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用&lt;契約&gt;が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退去後も、家族や入居者の相談が出来る様な関係作りに努めている。また、協力機関との情報共有や連携を図るよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関りを大切にし、言動等から一人ひとりの思い、ホームでの暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	日常生活の中で利用者と会話がしやすい環境づくりに力をいれており、思いの声が聞かれる。言葉でいえない利用者には、家族から生活歴等について聞いたり、表情・仕草・言動等から要望や意見を把握し本人の思いに沿うように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の関係機関、施設等と連携を図り情報収集をしっかりと行っている。また、新しく知り得た情報も追加し、スタッフ間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、一人ひとりの観察を行い、生活状況や気づきを記録している。カンファレンス等を行い、スタッフ全員で情報共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のスタッフ会議で、一人ひとりの状況や情報共有を行い、本人にあった計画の見直し、作成を行っている。	本人や家族から意向を聞いて、主治医の意見や介護者等の意見を聞き、担当者会議を実施し介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、職員会議でも話し合い、利用者の満足度を確認している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、本人の日々の暮らしの様子を記録し、いつでも全スタッフが確認できるようにし、ケアに活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主活医、医療連携看護師との連携によって、24時間緊急時の対応が出来るようにしている。また、地域の眼科、歯科、理容室の協力により、希望時に対応出来るようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域公民館、市役所、学校、地域ボランティア等、関係機関に働きかけている。広報誌や回覧板などで情報を得て参加可能な行動には参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	守屋病院を主治医とし、24時間体制で医療連携を図っている。他科受診に関しては、ご家族の協力を貰いながら行っている。	母体の医療機関が主治医となっている。週1回健康管理の為、看護師の訪問がある。24時間医療連携体制が整っている。歯科受診は訪問診療である。皮膚科や眼科の受診の時は、主治医の紹介状等をもって専門の医療機関を受診し、結果は家族へ報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>常に入居者の健康管理や状態変化に応じた支援が行える様毎日、医療連携看護師へその日の状況報告(電話)、週1回の訪問時にも状況報告を行い、助言支持を受けている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>医師と話しをする機会も持ち、対応可能な段階で、なるべく早く退院できるよう連携を図っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に看取り介護は行っていない事を家族へ説明している。重度化した場合においては、ホームで提供できる範囲を見極めながら本人、家族、連携医療機関と協力し、支援を行っていきけるよう取り組んでいる。</p>	<p>マニュアルを基に、入所時に説明をして同意書をもっている。重度化した場合は、主治医から家族へ説明をしている。施設を選ぶか、母体の療養型医療機関へ入院するかを選択がある。最後のできるところまでホームで対応している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>主治医と24時間いつでも連絡がとれる体制を整えている。緊急連絡網を作成し、情報伝達がスムーズに行えるようにしている。また、AED、救急蘇生について学んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>それぞれの災害対応マニュアルを作成し、必要に応じ見直し改定を行っている。そのマニュアルを基に2か月に一度防災自主訓練を行っている。館内には避難経路を掲示している。近隣住民、自治会長、民生委員の協力を得て緊急連絡網に加わって頂き、有事の際に備えている。備蓄品は館内はもちろん、守屋病院にも備えている。</p>	<p>マニュアルを基に年2回実施。他に自主訓練を1回行っている。家族と訓練についての話し合いを2ヶ月に1回行っている。自治会長や民生委員も緊急連絡網に入っている。コロナ感染防止の為に地域への声かけはしていない。備蓄として、米・水・乾麺・レトルト食品・缶詰等を3・4日分を備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に勉強会を行い、不適切な声かけ、介助などには、スタッフ間で注意しあっている。特に排泄介助時は他者に聞こえないような声かけを行っている。入室時には必ずドアをノックし了解を得て入室している。	接遇についてのマニュアルがあり、勉強会を実施している。トイレ誘導時の声掛けは小さな声で話すようにし、失禁時の声掛けも同様に羞恥心に気を付けている。居室の入室前のノックにも注意している。申し送り時も部屋の番号で行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	知り得た情報や日々の状態から本人の思いをくみとり、また、話しやすい雰囲気作りや本人が選択できるような声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の日程に沿って支援を行うが、その日の本人の体調、意思を尊重し穏やかに過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	季節に応じた好みの服などを家族に持参して頂いている。洗顔や整髪は必要に応じ、ホットタオル等を使用し支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りが出来る方には、一緒にセッティングや片付け等を行っています。管理栄養士訪問時に、嗜好調査をして頂き、入居者に合わせた食事形態など毎回話をしています。	法人の栄養士が定期的に施設を訪問し利用者の食事形態の把握や嗜好調査を実施している。食材の調達も法人で行って施設へ配達している。誕生日はケーキや菓子を手作りしている。行事食も職員で作っている。下ごしらえや食器洗い等のできることは一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立に沿って食事作りをしている。食事量や水分量は、毎日記録し、全職員が確認、情報共有しています。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行いその方の状況に応じて介助しています。歯ブラシ、コップ等は、毎週消毒を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、声かけを行いトイレでの排泄が出来るように支援を行っている。	チェックシートを利用して、排泄パターンを把握し昼間はトイレで排泄することを基本としている。トイレへ誘導することでオムツの使用回数が減った利用者がある。リハビリパンツと尿取りパットを使用していた利用者が布パンツに尿取りパットだけに改善できた事例もある。夜間だけオムツの利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂取出来るように好みの飲み物の提供や医療連携ナースとの連携を毎日とり便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴が楽しめる様支援している。例えば、前日入浴され今日も入りたいと希望が聞かれたら入浴して頂いている。	週2回以上午前中に希望に応じた入浴ができています。拒否のある場合は、時間を変えたり、介助者を変えたり、タイミングを見ながら入浴の声かけをしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況を見て臥床時間を設けたり、夜間は入居者のペースで居室に戻ってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をもとに、目的や副作用などを理解し、変化があれば医療連携看護師、主治医へ報告行っている。又、毎日投薬チェックを使用し確実に服薬確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人のできる事、やりたい事を把握し、お手伝い、新聞購読など今までの生活や趣味が継続して出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>本人の希望に沿って散歩や週1～3回病院リハビリへ参加し、外出の機会を設けている。</p>	<p>年間計画はあるがコロナ感染防止の為に自粛している。外出の機会を希望を聞いたりしてドライブに誘ったりしている。数名でドライブに行き自宅付近まで行って知り合いと出会ったら挨拶等をしている。週2・3回通院リハビリで医療機関へ行くことが利用者の外出の機会となって楽しんでいる。正月は施設内で鳥居を作り初詣を楽しんでいる。施設の庭で、花見をしながら花見弁当を食べたりしている</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族よりお金を預かりホームで管理している。入居様にはお金があることを伝え欲しい物を購入できたり、少額のお金を持って頂くことで、安心されている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>公衆電話の設置、又携帯電話の持ち込みして頂いたり、希望の時には、家族への電話の取次ぎ等支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激(音、光、色、広さ、湿度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節感を感じられる様に季節の花を飾ったり、壁面へ季節の物を飾っている。又、湿度、温度を測定し過ごしやすい空間づくりに努めている。</p>	<p>ホールは、大きな窓があり、加湿機能のついた空気清浄機や温度計・湿度計などがあり、空気の入れ替えを常時行っている。ソファを置いて誰でもゆっくりと寛げる空間である。食事風景も見られ匂いも感じられ家庭的な雰囲気になっている。昼間は殆どの方がホールで過ごしている。壁には、季節の作品を掲示し季節が感じられるような工夫がされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>フローアにソファを置いたりデッキにテーブルや椅子を置き、好きな場所で寛げるようにしています。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>在宅で使われていた家具や、テレビ、イスなどを持ってきてもらい自宅に近い居室づくりに努めている。</p>	<p>ベッド・エアコン・タンスを設置している。寝具は持ち込み以外はレンタルになっている。椅子・仏壇・衣装ケース・家族の写真などを持ち込み、自宅と同様の部屋作りをして本人が居心地よく過ごせるように配慮している。季節変わりの衣替えも職員と一緒にしている</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>安全に移動できる様、常に動線の確認、環境整備を行っている。</p>		



V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目:36,37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:9,10,19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目:11,12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない